

塩尻・木曽地域地場産業振興センターの今後



新政会
まきの
牧野

なおきの
直樹

その他の 質問事項

▼ 未来の都市づくりについて

◆ 負担付き寄附の議決の 要否

問 塩尻・木曽地域地場産業振興センターが所有する土地・建物等の資産は、市へ譲渡し公の施設とするとしているが、現在入居している事務所、店舗などの権利関係はどうなっているのか。

答 また、入居者の権利も継承するのであれば、単なる土地・建物などの寄附ではなく、寄附を受けたのちに市に義務が生ずる「負担付きの寄附」として議会の議決が必要になるのではないかと。

答 地方自治法に基づき議会の議決事項として規定している負担付きの寄附については、寄附を受け入れる際には相手方からなんらかの条件が付され、受け入れ先が履行しない時は、寄附の契約が解除され、返還義務が生じるものと理解している。負担付き寄附については、関係課などで協議を

行っており、長野県とも公益目的支出計画の変更と併せ協議を進めている。

要望 あらゆるケースを想定し、仮にも経営不振等で地場産センターが解散といった事態にならないよう、しっかりとした経営計画を立案し、経営状況を改善するなかで運営されることを望む。

◆ 道路インフラについて

問 緑ヶ丘南交差点改良の現状はどうか。

答 昨年度から現況の平面測量と交差点の概略設計を進めてきた。本年度、交差点の詳細設計と用地測量を実施し、地権者へ説明する予定である。



塩尻・木曽地域地場産業振興センター

しおじりの将来を、夢を語ろう



清風クラブ
ひらま まさし
平間 正治

その他の 質問事項

▼ 今後のまちづくり、立地適正化計画について

◆ 東山から片丘山麓にかけての観光開発は

問 この山麓は傾斜が緩やかで自然豊かな地域である。また、松本平を見渡し、北アルプス連峰を眺望する全国的にも屈指の景観地であると考え、さらにごく近くに高速

道路が走っており、インターチェンジもあつて関東、中京、あるいは関西圏からの交通の利便性も良く、多くの観光客や交流人口が見込まれる。

また、本市に点在する、ワイン、レタス、果樹、そして平出遺跡、奈良井宿、漆器といった個々の観光資源を有機的に結びつけ、将来の本市の活性化が期待できる。

こうしたことから、本市に残された最大の観光開発の可能な地と考えるが、具体的にはアウトレツトモールや遊園地的な施設と高ボッチ高原へのロープウェイや温浴施設などの一大施設により、



高ボッチとなだらかな山麓

自然と共生した塩尻の発展について皆で夢を語り、研究すべき時期ではないか。

答 塩尻インターチェンジに近接した、交通の利便性も高いこのエリアの観光資源の有効活用は、観光による交流人口の増加を図るうえでも重要であると考えている。

具体的な提案内容については、民間資本や民間の開発業者側の意向が大きな課題となるが、高ボッチを含む東山山麓地域のポテンシャルを活用した資源開発の研究や、観光プロモーションを継続して展開していきたいと考えている。